



嘉数小六年二組の力

アルミ缶とプルタブを集め車イスを贈ろう・・・

嘉数小六年二組、三十八名の生徒が卒業までに実現しようと奮闘している。きっかけは生徒の母親が読み聞かせた一冊の絵本だった。題名は「小さな学校の大きな思いやり」。主人公さとしの妹の為に家族や地域で協力しプルタブを集めるという話である。それに感動した六年二組の生徒が学級会で知恵を出し合い役割分担を決め、全校生徒一〇〇〇人と大人の意識を変えた。保護者も「嘉数つ子・夢の輪活動母の会」を立ち上げ、毎週金曜に正門でアルミ缶を集めバックアップしている。

今回、生徒のプルタブ集めに参加した。各教室にペットボトルが設置されており、プルタブが詰められている。木曜の休憩時間に六年二組の生徒が回収しており、その重量は二〇kgにもなる。「今年中に集めたんだ。車イスを贈る人も探さないといけないし。二〇kgじゃ間に合わないから、スーパーとかにもお願いしに行くと思う」とある生徒が話してくれた。
捨てればゴミになる空き缶も、人の役に立つものに変身し、環境の配慮にもつながるばかりでなく、培ったボランティア精神は子ども達の今後の人生への大きな自信になることだろう。私もお土産にとゴミ袋いっぱい空き缶から取れた一六七個のプルタブを生徒に渡した。お礼の言葉が教室中

に響き渡り、私の心は大きく動かされた。

現在の総重量は三〇〇kgにもなる。しかしアルミ製車イス一台(六、七万円相当)と交換するにはあと五〇〇kgが必要だ。校長室でプルタブの重さを量ると一個〇・三g。「八〇〇kgとなると二四〇万個のプルタブが必要。大変だが夢中になって一つの目標に向かうことが大事」と佐久川校長。宜野湾市民の皆さん、嘉数小に空き缶を下さい。アルミ缶のみ、プルタブのみでも構いません。大量の場合は母の会が回収いたします。是非、子どもたちの夢を叶えてあげましょう。

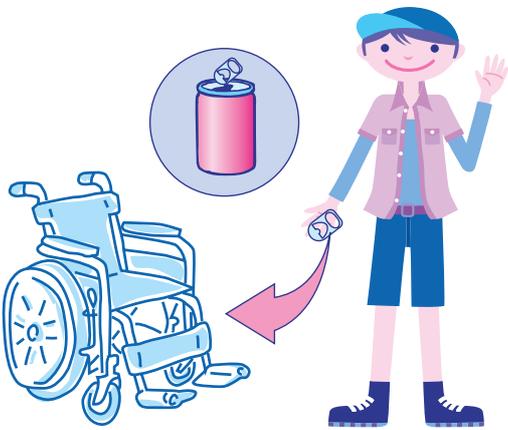
嘉数小母の会代表 比嘉

☎〇九〇―一九四四―四五〇七

嘉数小学校

☎八九八―二六三〇

エプロン通信員 宮里 希見子



茶

ぐわーゆんたく

31



上杉県令の宜野湾視察

一八八一(明治十四)年、沖繩県令(県知事)の上杉茂憲が、県内の巡回視察を行い、同年十一月には宜野湾間切(今の市町村)を視察しました。西原を出発した県令一行は、我如古から志真志川を渡り、屋根に葺く茅が植えられた所や水田などの風景を眺めながら、宜野湾にある中頭役所へと向かいました。

中頭役所は、美里間切(今の沖繩市)から宜野湾間切番所(役所)に移転した県の支庁で、宜野湾並松の側にありました。庭にはみかんの木やソテツ、芭蕉、

「宜野湾市史」への問い合せ
教育委員会文化課
☎八九三―四四三一



我如古の上之川橋(石橋)。今では志真志川の様子もすっかり変わりました。



宜野湾並松 (普天間・大正期末)